

ふるかわやくし ひやくみくようとう
古川薬師の百味供養塔

所在地：安養寺 西六郷2-33-10

交通アクセス：①京浜急行本線雑色駅から徒歩13分

②蒲田駅西口から東急バス〈蒲01 六郷土手行〉で「西六郷二丁目」下車3分

公開の有無：常時公開（安養寺境内）



安養寺境内にはたくさんの石造物がありますが、そのうちのひとつに「百味供養塔」と、あまり聞きなじみのないことばが刻まれた、高さ2メートル強の大きな石碑があります。これは百味講碑のひとつです。「百味講」とは、信者が集まって信仰する寺院に百味（さまざまな美味・珍味）の供物を供えること、またその集まりのことをいいます。東京付近においては江の島の弁財天、成田の不動尊、浅草の観音などでおこなわれたものが有名です。近世になると江戸南郊の古刹として広く信仰を集めた古川薬師（現在の安養寺）にも、百味講集団が存在したことがこの供養塔によって知られます。

供養塔に造立年代は記されていませんが、明治初年頃のものともみられます。背面に刻まれている講員の所在は、現在の区域内では大森村・萩中村・嶺村・鷓木村・新宿村・蒲田村・下丸子村・羽田村・糀谷村・浜竹村・八幡塚村・雑色村・新井宿村・沼部村・矢口村・今泉村・道塚村・安方村・蓮沼村・小林村・高畑村の各村にわたります。さらに区外では川崎や品川・高輪・麻布方面にまで及んで総人員は242名に達し、なかには念仏講中なども加わっているようです。隣に建てられた富士講碑の背面にも「永代百味供物講社」の文字が刻まれており、古川薬師の百味講には、富士講碑に刻まれた多数の富士講も関与していたことがわかります。